

郡科学作品展・社会科課題追究作品展特集号

9月2日(土)・9月3日(日)に「令和5年度揖斐郡科学作品展」・「揖斐郡社会科課題追究作品展」が池田町中央公民館で行われました。

作品展には夏休みの間に児童・生徒のみなさんが熱心に取り組んだ素晴らしい作品が各校から出品され、作品展では約600名の方に参観していただきました。各作品展の出品状況・入賞者は以下の通りです。

【1】令和5年度 揖斐郡科学作品展

(1) 取り組み状況	郡での 総取り組み数	郡作品展 出品数	入賞数			
			金賞	銀賞	入選	県作品展出品
科学作品展	400点	80点	11点	17点	52点	5点

(2) 令和5年度 郡科学作品展 金賞・銀賞の入賞者 (敬称略)

賞	テーマ	学校	学年	氏名
研究の部				
金賞	てのりスライムをつくる	大和小	1	五十川 陽南
金賞	つくろう！ちきゅうにやさしいおやさいペーパー ～ごみがかみに大へんしん～	北小	2	見屋井 花
金賞	すごい！！新聞紙	大野小	3	多賀 郁杜
金賞	揖斐川町の涼スポットを探せ	北方小	4	吉田 裕衣子
金賞	すごいぞ！汚れた水をきれいにする微生物パワー ～じょうかそうの中のひみつの仕事～	北小	5	見屋井 陸
金賞	ペットボトルの水を楽に速く出す方法とは	大野小	6	杉原 秀汰朗
金賞	扇風機の後ろは何故涼しくないのか	大野中	中3	森 由妃 平井 希歩 高橋 貴太 日比野 心和
銀賞	しわしわのきゅうりのなぞをとく	池田小	1	いとう ももな
銀賞	ぼくのつり魚&海の生きもの図かん No.1、No.2	南小	2	三間 匠馬
銀賞	ナスの色はホントに白くなるの？	揖斐小	3	富田 菜月
銀賞	とげにくいかき氷を作りたい	温知小	3	野原 理央
銀賞	野さいはみんな生きている！？	温知小	3	森 いと
銀賞	オリジナルの炭酸ジュースを作ってみたい!!!	揖斐小	4	八幡 弦真
銀賞	すべり台 すべりたい！	小島小	4	林 想真
銀賞	冷たいひえひえタオルをつくりたい！！	東小	5	松浦 陽太
銀賞	光れ電気の実験	八幡小	5	竹内 大智
銀賞	バナナを長持ちさせるには	池田小	5	小林 由芽
銀賞	酸性とアルカリ性の秘密を探れ！！	清水小	6	加勢 結希奈
銀賞	知って食べる 選んで食べる食品添加物	南小	6	浅野 幸希
銀賞	紫外線から守る！	池田小	6	柄木田 侑輝
銀賞	洗剤や食品でのソースの落ち方	大野中	1	戸川 楽久 桑原 悠 坪井 萌依 大久保伊織 大須賀 実桜
科学工作の部				
金賞	無人島サバイバル	揖斐小	4	今西 康瑛
金賞	ぼくが会いたい魚の立体図かん	揖斐小	4	佐木 誠仁
銀賞	振り子	北方小	4	岩間 栞
銀賞	月はなぜ形が変わるの	南小	4	古川 湊人
銀賞	私が作った電流計	宮地小	5	本田 朋
採集(標本)の部				
金賞	ぼくのたねずかん たねたねボックス	小島小	1	藤内 湊大
金賞	セミの むけがら 1000こ あつめたよ！	西小	1	にわ ひさはる

【2】令和5年度 揖斐郡社会科課題追究作品展

(1) 取り組み状況	郡での	郡作品展	入賞数			
	総取り組み数	出品数	金賞	銀賞	入選	県作品展出品
社会科課題追究作品展	194点	54点	8点	7点	39点	5点

(2) 令和5年度 郡社会科課題追究作品展 金賞・銀賞の入賞者 (敬称略)

賞	テーマ	学校	学年	氏名
金賞	だいすきたるみてつどう ～うんでんしさんになれるかな?～	南小	1	青木 仁多朗
金賞	点字のけんきゅう 小さな点がおしえてくれたこと	大和小	2	細野 瑛菜
金賞	乙原のいいところを見つけよう	北方小	3	高橋 穂香
金賞	きけんが多い通学路 わたしに何ができるかな?	南小	4	青木 桜和
金賞	ごみぶくろ調べ	池田小	4	竹中 綸葉
金賞	し覚しょう害者の生活 ～点字ブロックから～	揖斐小	5	富田 隼平
金賞	防災～災害は突然やってくる。今、私ができる事～	池田小	6	竹中 咲綾
金賞	公郷の城址のなぞ Part2	揖東中	中2	牧村 琉聖
銀賞	ぼくの はたらく くるまづかん	春日小	1	おぐら やすふみ
銀賞	しょうぼうだんってなあ～に?	南小	2	長田 宗
銀賞	和菓子のけんきゅう	小島小	3	藤内 結菜
銀賞	ぼくの大好きな学校給食 パート2	温知小	4	藤墳 碧仁
銀賞	安田家の防災対さく	宮地小	4	安田 圭佑
銀賞	古墳の謎 ～野古墳群と昼飯大塚古墳の違い～	揖斐川中	中1	所 勇杜
銀賞	人とサルのコ存を目指して	大野中	中1	山本 侑希 山本 拓実

【3】令和5年度 揖斐郡科学 & 社会科課題追究作品展 入場者数

作品展では多くの方に参観していただき、ありがとうございました。

総参観者数 609人		(昨年度：569人)
第1日：9月2日(土)	354人	第2日：9月3日(日) 255人

【4】令和5年度 揖斐郡科学 & 社会科課題追究作品展の様子



社会科課題追究作品展の様子



科学作品展(研究の部)の様子



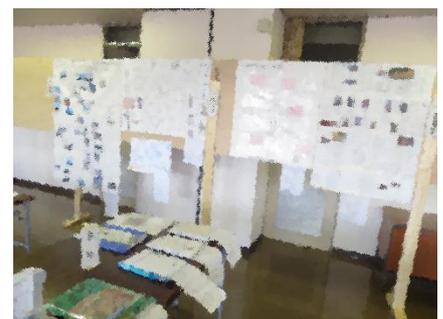
科学作品展(科学工作・採集)の様子



社会科作品展審査の様子



科学作品展審査の様子



展示会場の様子

【5】令和5年度 揖斐郡科学&社会科課題追究作品展の講評

作品展の審査をしていただいた郡科学作品展及び社会課題追究作品展の担当校長先生や担当役員の先生方からご講評をいただきました。子どもたちによさを伝え、価値づけることや今後の方向性を示すこと、また作品展を通して明確になった学校としての指導の新たな視点等のためにご活用ください。



(1) R5 郡科学作品展の講評

<1年生について>

- 1年生の作品では身近なものに興味・関心をもち願いをもって実験や観察が続けられていた。
- 1年生の金賞の作品では「手にのせてもくずれず、よく伸びるスライムを作りたい」という願いのもと、スライムづくりに使う材料の量を変えたり、別の材料を付け加えたりしてできを比べ、理想のスライムになるまで繰り返し実験を行っていた。
- まとめとしてフローチャートに分かりやすくまとめ、丁寧な研究の様子が伝わった。
- どの作品も興味をもったことをテーマにしてこつこつと研究が進められていた。
- 家族の協力のもと1年生の児童が作品を仕上げた経験はこれからの大きな力と自信につながっていくと考えられる。

<2年生について>

- 野菜や花、魚など生き物を扱う作品が多く出品されていた。
- 「野菜から紙を作る」、「野菜を干したらどうなるか？」などの子どもらしい興味関心から研究のきっかけをみつけており、楽しく実験をしている様子が分かった。
- 繰り返し実験データを集め、それをまとめて分かったことを自分の言葉で書いており、「やってよかった」や「頑張ったという思い」でやり切った作品が数多くあった。
- さらに実験の結果から次の疑問につなげて研究が進められとよい。また不思議だなと思ったことを自分で確かめることの喜びを味わうことができるので科学作品にぜひ取り組んでほしいと思った。

<3年生について>

- 丁寧にデータをとっている研究が多くあり、その結果をもとに考察している点がよかった。
- 生物（昆虫や野菜）や身近なものを研究の対象としており、3年生らしい研究になっていた。
- 写真を使うことが多くなってきた中で野菜の観察を手描きにスケッチを続けた研究などはこれからも大切にしたい。
- 研究動機が生きていてよかったが、テーマが広すぎたり、何をしたいかがはっきりしない研究があり、更にテーマを絞って考えてみたい。
- 疑問を追究する姿に驚くとともに、日常のなぜから創造力を働かせて自分で不思議を解決しようとする様子が素晴らしかった。
- 自分で見て、経験したことをもとに、しっかりと考察したり、結果をグラフや表にして分かりやすくまとめた。
- 作品展を通して自分で調べ、失敗しながら何度も研究を重ねることの素晴らしさを学んでいた。これからは常に「なぜ?」、「どうして?」と思う気持ちを大切にしていってほしい。

<4年生について>

- 全体的に調べる、実験するという内容が多く、たくさんの事象に触れる作品が多かった。
- ただその実験をやっただけ、調べただけという作品も見られたので、そこから何が分かるかや発展して次のステップに取り組みできるようにできるとよい。
- 多くの実験に取り組み頑張っているのだから、「研究の進め方」、「まとめ方」の指導を学校で行っていく必要があると感じた。また児童が自分の力だけでそこまで行うのは難しいので、保護者の方の協力も得ながら進めていく必要を感じた。
- 金賞や銀賞の作品では丁寧に結果をまとめたり、何度もデータをとり、自分の考えが述べられていた。
- やや作品数が少なく感じたので、多くの子どもたちが取り組んでいけるとよい。

<5年生について>

- 研究の動機がはっきりしている作品が多かった。「身の回りの疑問を解決したい」という思いが伝わってきた。
- グラフや表を使ってまとめることで視覚的にも分かりやすくなっていた。
- 実験では条件をそろえたり、基準を決めたりすることで客観性を高められていた。
- 調べ学習も大切だが、自分の手で追究する姿を大切にしたい。
- 金賞の作品は自分の生活に根ざした研究をしているところがよく、調べただけでおわらず、浄化槽の仕組みを再現しているところがよかった。

<6年生について>

- どの作品も研究を始めた動機や仮説、検証の仕方について丁寧にまとめてあり、研究として成り立っている作品が多くてとてもよかった。
- データのまとめ方も写真を何枚もとったり、大量のデータを表にまとめるなど、結果の整理の仕方も考えられていて大変見やすかった。
- 実験結果を表やグラフに見やすくまとめてあり、とても分かりやすい研究になっていた。
- 実験を進めていく中で新たに生まれた疑問を更に追究している研究もあり、素晴らしかった。
- 夏休みの長い期間を使って日々研究に励んだのが伝わってきた。
- 実験結果からもう少し考えを深めたり、広く考えたりすることができる研究もあったので、データをもとにして考察するということが頑張っていくと中学校につながっていく。

<中学生について>

- 繰り返し実験を行ったり、実験の条件を整理、制御して実験するなど、科学の基礎である再現性が十分に担保されている点も科学作品としての質を高めていてよかった。

- 考察については実験結果をもとに考えられることをまとめてある点はよいものの、そこから更に一步踏み込んで探究を深めようとする姿勢には弱い部分がある。
- 中学生になると部活や学習で忙しくなるが、欲を言えばもう少し出品数が多いと思う。自分の学校でもPRしていきたい。
- 金賞の作品は扇風機の前後の風量の差に着目し、「横から空気を集めてるから」という結論までたどり着いているのがよい。また「横の空気の流入を止めると」と発展させている点が、追究する点として優れている。

<科学工作・採集（標本について）>

- 工作の部では自分の好きなものや興味があるものをもとにして作られている作品が多くあった。
- 時間をかけて努力して伝わってきた点がよかったが、科学工作なので、作品に科学的な要素が加わるとよい。
- 採集の部では生物に対する愛情が感じられる作品が多くあった。とても丁寧に採集したり、まとめたりしてあり、見ごたえのある標本になっていた。
- 採集の部ではただ集めるだけでなく、集めたものを整理・分類されていてよかった。

(2) R5 郡社会科課題追究作品展の講評

<全体を通して>

- 学年ごとに自分の興味のあることを追究していこうと努力した作品がたくさんあった。
- 追究に一貫性のあるものは読んでいて読み応えがあった。
- 分かりやすいように色使い等を付けてまとめている作品も多くあり、楽しんで作品作りに取り組んだ様子が伝わってきた。
- 疑問に思ったことや調べてみたいと感じたことをきっかけに課題を設定し、資料や本、インタビューなどで熱意をもって探究してある作品が多かった。
- まとめ方も工夫しており、楽しみながら読み進めることができた。
- コロナがあけて外に出るの取材もできるようになったが、そうした活動・学びの抵抗感なのか、出品の数が少ないのはさびしい。内容的にもインターネット等で収集したものも多く、資料の信憑性の検証を指導する必要がある。とはいえ、社会的な事象に関心を持ち、進んで学びに向かっている姿は大いに認めていきたい。ダイナミックな課題というより身近なところから疑問を持ち自らの課題を追究する作品が目立った。
- 全体に歴史的分野に関する作品の割合が多く、地理的分野や公民的分野への関心をどう高めていくかが学校側の課題である。
- 調べたことをまとめるだけでは「追究」としては弱い。またテーマの設定にあたり、社会科の課題追究に適したものを選ぶ必要がある。

<低学年について>

- 自分の好きなもの、日常生活、家族の仕事などから研究のきっかけを見つけ、低学年とは思えないほど中身のある研究が多かった。
- 調べるだけでなく、図書館に行ったり、働く人にインタビューしたり、実際に体験するなどいろいろな方法で追究していくことの大切さを改めて感じた。

<中学年について>

- 実際に現地に行って調査をしたり、体験的な活動をしている作品がとても多いと感じた。インターネットや書籍で調べるだけで終わっていない点が良い。
- 調査や体験したりして感じた感想を書くだけに終わってしまっているものがあるので、そこから自分が社会的にどう考えるのかという考察がかけるともっとよい。
- 研究を行うに至ったきっかけも「～が好きで興味があったから」というだけでなく、何か社会的な表象について考えたことから研究のきっかけにできるとさらによい。
- 自分で考えたことを社会に提案するなど、社会参画の力が身につけている。特に4年生の作品には3年間の継続研究になるものが2点あり、大変な大作であった。

<高学年について>

- 調べたことから自分で考えたり、作ったりしていてやりきることができていた。
- 着眼点が非常に面白く、日頃の疑問の解決のために、実際にやってみたり、実践・調査を積み重ねるなどの努力が感じられた。

<中学校について>

- 動機が明確であり自分のもった課題意識について意欲的に追究しようとする過程が見られた。
- 特に金銀受賞作品はその追究の過程でアンケートや聞き取り調査、文献調査、講演会への出席など自分の疑問を明らかにするために、より適切と考えられる方法を選択し、課題追究がなされていた。
- 小学校の時に調べた内容を新たな視点から取り上げた年月をかけて深く掘り下げる作品があり、素晴らしかった。
- 研究に取り組むことで子どもがグラフや資料をうまく活用してまとめる力を身につけており、有意義な作品展だったと感じる。
- 昨年度に比べ、現地に出向き調査活動をしている作品が多く、本物を実際に見て感じるものの大切さや主体的に課題追究することの大切さを生徒が実感していた。ぜひこのような力を様々な場で生かしていけるようにしたい。

